

年代	橋本徹(SUBURBIA)ライフ・ヒストリー	渋谷カルチャーをめぐる状況・情勢
1964年		東京オリンピック開催によるインフラ整備(国道246号拡幅など)
1966年	4月3日、東京都世田谷区駒沢で誕生	
1973年		渋谷PARCOがオープン、公園通りの誕生
1977年		新玉川線(現・田園都市線)開業
1978年	初めてレコードを買う(キャンディーズ「微笑がえし」)	
1981年		タワーレコード渋谷店が宇田川町にオープン(輸入盤文化の本格的到来)
1983年	この頃よりレコードを本格的に買い始める(ネオ・アコースティックetc.)	
1986年	慶應義塾大学経済学部入学 母校・東京学芸大附属高校野球部監督就任	
1987年	小西康陽の音楽・映画紹介に感化される(文化系へのめざめ) 中古レコード店・映画館めぐりに没頭	
1988年	ピチカート・ファイヴ『ベリッシマ』プレス・リリースで初原稿執筆	SHIBUYA CLUB QUATTROオープン シネマライズ渋谷オープン
1989年	桜丘の喫茶店「マックスロード」で小西康陽と初対話 ピチカート・ファイヴのファン・ボックス制作(選曲カセット6本も)	Bunkamuraオープン(東急グループによる複合型文化施設)
1990年	4月、講談社入社、『Hot-Dog PRESS』編集部配属 秋、フリーペーパー『Suburbia Suite』創刊	HMV渋谷オープン(外資系CDショップ進出の加速) DJ BAR INKSTICKが公園通りにオープン
1991年	夏、DJ BAR INKSTICKで初めての『Suburbia Suite』クラブ・パーティー開催	
1992年	春、TOKYO FMで選曲番組『Suburbia's Party』スタート 秋、初コンピCD『tis blue drops』と初めての『Suburbia Suite』レコードガイド発売	
1993年	7月、講談社退社とサバービア・ファクトリー設立 渋谷・宇田川町へ転居 リイシュー監修シリーズが続々登場	WAVEが渋谷クアトロ店と渋谷ロフト店の2店舗展開に
1994年	春、2冊目の『Suburbia Suite』レコードガイド刊行と『Free Soul』コンピの始動&大ヒット	フレンチ・カジュアル系からソウル系・古着系へのファッションの変化
1995年	『Free Soul 90s』シリーズ6枚リリース	タワーレコード渋谷店の神南への移転・メガストア化(人の流れの劇的変化)
1996年	コンピ『Free Soul Parade』『Free Soul Lights』が「渋谷系」のメッカHMV渋谷の邦楽売り場で セールス1位を記録 3冊目の『Suburbia Suite』レコードガイド刊行 4月、タワーレコードのフリーマガジン『bounce』編集長就任	宇田川町へのレコード専門店集積(「世界一のレコード屋街」と呼ばれる) ヒップホップやR&Bの台頭とストリート系ファッションの流行
1997年		クラブ「HARLEM」オープン
1999年	3月、『bounce』編集長退任 11月19日、公園通りに「カフェ・アプレミディ」オープン(公園通り沿いに転居)	QFRONTオープン
2000年	春、雑誌『relax』で『Suburbia Suite』復活 夏、『Cafe Apres-midi』コンピのリリース開始(「カフェ・ミュージック」の提唱) カフェ・ブームの到来	渋谷マクシシティ開業
2001年	USEN「usen for Cafe Apres-midi」チャンネル始動	
2002年	春、「アプレミディ・グラン・クリュ」オープン 秋、「アプレミディ・セレソソ」オープン	この頃より大人志向の街・渋谷へのシフトが試みられる
2003年	フレンチ・ブラジリアン女性シンガー、カチアをプロデュース(以降2007年までに3枚のアルバムを制作) 『Suburbia Suite』の集大成となる2冊の大型ヴィジュアル・ブック刊行	東急文化会館閉館と橋本徹による駅壁面へのコメント寄稿「人生の夏をすごした街です」
2005年	CDマガジン『We ♥ Free Soul』発売	
2006年	雑誌『MAC POWER』連載「公園通りみぎひだり」スタート	
2007年	アントニオ・カルロス・ジョビン生誕80周年でブラジル・リオへ(関連アルバムを多数リリース) 『Mellow Beats』コンピ始動とNujabesとの交流深化	
2008年	「公園通り」三部作でアプレミディ・ライブラリー始動、『Jazz Supreme』コンピ & ディスクガイド発売	リーマン・ショックの発生(世界的な金融危機) CISCO全店閉店
2009年	「セレソソ」「グラン・クリュ」閉店と「カフェ・アプレミディ」のリニューアル 『音楽のある風景』シリーズでアプレミディ・レコーズ始動	
2010年	2月26日、Nujabes逝去 秋、17年暮らした渋谷から駒沢へ転居	
2011年	「usen for Cafe Apres-midi」をUSENスタジオでのiTunes選曲へ移行	3月11日、東日本大震災 宮下公園がリニューアル
2012年	UNITED ARROWSの店内BGM選曲開始 『FM』シリーズ等で心機一転コンパイル活動再起動	渋谷ヒカリエがオープン(「100年に一度」の大規模再開発が本格化)
2014年	4月、カフェ・アプレミディをファイヤー通りへ移転 Free Soul 20周年で年間32作のコンピをリリース	HMV record shop 渋谷オープン
2015年	春、サバービア・レコーズ(ディスクユニオン配給)始動と『Good Mellows』シリーズ開始 オリジナル・アルバムを年間190枚リイシュー監修	この頃よりCity Pop再評価とアナログ・リヴァイヴアル
2016年	Spotify日本上陸に伴いプレイリスト選曲の仕事が始まる	
2017年	夏、dublalab.jpで「suburbia radio」スタート 11月、「レコードの日」でロジャー・ニコルス関連の7インチ・ボックス・セット監修(翌2018年も)	
2019年		新生・渋谷PARCOオープン 渋谷スクランブルスクエア開業
2020年	USENによる貸与パソコンで「usen for Cafe Apres-midi」「usen for Free Soul」の自宅でのリモート選曲開始 7月7日、結婚・入籍	2月26日、橋本徹がクリエイティヴ・ディレクターを務める渋谷スクランブル交差点でのNujabes追悼プロジェクト実現 新型コロナウイルス感染拡大と緊急事態宣言の発令 Miyashita Park開業、宮下公園が再開園
2021年	UNITED ARROWSと橋本徹の監修・選曲コンピのコラボTシャツ6種発売	東京オリンピック開会式でNujabes「Spiritual State」が使用される
2022年	4月2日、結婚式を挙げる	再開発に伴いクラブ「SOUND MUSEUM VISION」「Contact」が閉店
2023年	タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE」キャンペーンのモデルを務める コンパイラー・ライフ30周年記念コンピが3タイトル・リリース 秋、『Free Soul』とJOURNAL STANDARDのアパレル・コラボ実現	
2024年	春、サバービア・レコーズ(インセンスミュージックワークス配給)再始動(『Incense Music』 『Chillout Breeze』シリーズetc.) 夏、Free Soul 30周年記念コンピが2タイトル・リリース 秋、カフェ・アプレミディ25周年を記念してACME Furnitureとのコラボ・プロジェクト・ローンチ(家具やインテリア・アイテムの共同開発)	渋谷サクラステージ開業
2025年	早稲田大学講演会「渋谷文化漂流史」登壇	DOMMUNE 15周年
2026年	ダブルネーム・コンピ『カフェ・アプレミディ・ミーツ・スタジオジブリ』リリース 書籍『渋谷カルチャー考現学』刊行(DU BOOKS)	